

令和7年度 事業実績報告書

社会福祉法人 海士町社会福祉協議会

法人全体に関する事項

1. 経営基盤の強化

(1) 新給与システムへ移行

○法人合併後、先送りになっていた給与体系を統合。従来の給与表を廃止し、職務・職責やキャリアパスに重点を置いた新給与システムへ7月1日に計画通り移行を完了(給与規程を改正)。

○システムの理解を促すため、考課者向けの人事考課研修会を開催。

○事務機能の統合に向け、事務所のネットワークを整備、出退勤管理システム(クロノス)を導入した。

【課題・今後の取り組み】

○人事考課制度については、令和8年度を試行期間とし、令和9年度からの本格導入を目指す。

○出退勤管理システム(クロノス)は令和8年度から本格運用する。

(2) 安定した経営と財源確保のための役職員の意識醸成を図る

○経営基盤強化のため経営企画会議(会長、事務局長、法人運営部長)を週2回開催し、エイデル研究所による組織改革コンサルティングを毎月受けた。

○ビジョンマップを完成させ、職員研修を通じて法人理念の浸透と方向性の統一を図った。

○研修体系プロジェクトを立ち上げ、ビジョンマップを運動させた今後の法人研修体系の整備に着手。

【課題・今後の取り組み】

○事務局長が施設長を兼務している現状を解消するため、本部長や事務局次長を配置し、行政と緊密に連携できる体制整備を行う。

○行政との連携をさらに密にし、海士町の福祉の方向性や地域課題の解消に取り組み、新規の補助金・助成金の獲得や委託事業の検討を進める。

(3) 中長期的な設備の更新とサービス(事業)の整理と統廃合の検討

○保健センターや生活支援ハウスひまわりの老朽化、厨房職員不足、ご利用者・介護人材の減少に対し、「縮絨(しゅくじゅう)」をキーワードに海士町の福祉が持続するための方策を検討した。

○厨房システム、生活支援ハウス、通所介護の発展的解消による統合を検討。

○地域の(男性向けの)居場所づくりや買い物支援などを一体的に提供できる支援体制の検討を進めた。

【課題・今後の取り組み】

○施設・設備の老朽化や人口動態、経営状況を見据え、地域やご利用者の状況に即した定数・運営形態の見直し(サービスの統廃合・発展的解消)を具体化させる。

2. 利用者満足度の向上

(1) 虐待と不適切ケアの防止

○各施設の虐待防止委員会を統括する虐待防止プロジェクトを発足。職員セルフチェックリストを導入し、定期的に職員の状況を確認できる仕組みを作った。

○11月を虐待防止月間と定め、ポスター掲示や啓発用語の唱和を実施。また、交流活動や面会機会を拡大し、組織の風通しと環境整備に努めた。

【課題・今後の取り組み】

- 見守りカメラの設置(虐待防止目的のみならず、多角的な視点からの検討)については令和7年度の設置に至らなかった。職員のセルフチェックシートを活用し、職員の状況を随時把握しながら、課題に対しては迅速に対応を行う。

(2) 接遇・マナーの向上

- モラル向上委員会(特養)は、職員玄関へのポスター掲示等を通じて接遇への意識啓発を実施。
- 「親しみのある言葉遣い」と「馴れ合い」の境界線、また「標準語が冷たく聞こえないか」などの職員間での議論を深めた。
- ユニフォームの見直しは、業種間の違いを考慮しつつ、Tシャツ・ポロシャツを作成し統一を図った。

【課題・今後の取り組み】

- 言葉遣いの表面的な改善に留まらず、気になるケースに対しては「プロ(業務)」として遠慮なく職員間で助言・指導をし合えるチーム作りに取り組む。

(3) 利用者交流

- 諏訪苑の習得室を交流スペースとして整備し、ボランティア活動の拠点として地域住民に開放した。
- 高齢者施設間での交流は頻繁に実施できた。また、町内行事にご利用者が参加(見学)し地域住民との交流を図ることができた。

【課題・今後の取り組み】

- 高齢者施設に比べ、障がい者施設との交流が少なかった。今後は法人全体での計画的な交流機会を作る。

3. 職員満足度の向上

(1) 人材確保・定着・育成

- 株式会社「風と土と」が主催する離島福祉プロジェクト等を通じ、6名の正規職員を採用した。
- 今後の体制構築の要となる、看護師、管理栄養士、経理職員といった専門職の確保に成功。
- 専門職の受験支援を行い、介護支援専門員3名、介護福祉士1名が合格となった。

【課題・今後の取り組み】

- 移住希望の求職者がいたものの、住宅を確保できず採用を断念せざるを得ないケースが発生。福祉職員向け住宅(チェダツテ等)の老朽化も進んでおり、住宅確保が喫緊の最重要課題である。

(2) 研修体系の整備

- エイデル研究所のコンサルティングのもと「研修体系整備プロジェクト」を立ち上げ、法定研修などを計画的に実施できる体制を構築した。
- 7月の給与改定に合わせ、職員に対して明確なキャリアパスと職務職責を提示した。

【課題・今後の取り組み】

- 属人化(特定の職員しか分からない業務)している仕事が多く、誰でも業務を引き継げるマニュアルの整備や体制づくりの整備が必要である。

(3) 職員交流・共有

○職員の視野を広げ、視座を変えることを目的に、令和7年度は大規模な配置転換を実施。本部統合を見据えた事務職員の人事交流も行った。

○職員間の「聞かされていない」による不和を解消するため、グループLINE等を活用したタイムリーな情報共有を試行。

【課題・今後の取り組み】

○グループLINE等の情報共有ツールの運用のルールやマナーに課題が残った。LINEやメールに頼らずコミュニケーションによる情報共有ができるチームと仕組づくりが必要。

(4) 働きやすい環境整備

○老朽化している施設内の物品整理を行い、故障した介護用品や、コロナ禍で蓄積した感染対策物品を廃棄・整理(断捨離)した。

【課題・今後の取り組み】

○職員のメンタルヘルスに関して、外部専門機関の紹介や医療機関との連携を必要とするケースが数名発生。職員の心身の健康を守るため、メンタルヘルスクアを今後の最重要課題として位置づけ、実践していく。

5

(4) 会議等の整理

○会議の目的を明確化し、施設間で共同開催できるものをまとめるなど、会議日程の整理。夜間の会議削減を検討しいくつかの会議は日中会議に変更した。

○全施設でのオンライン会議ができるよう、インフラ(on-line環境)整備を行った。

【課題・今後の取り組み】

○会議時間の効率化を図り建設的な議論を進めていく。また、公的な雑談の場も設けながらメリハリをつける。AIなども活用し事務時間の効率を図る。

4. 海士町の地域福祉課題への対応

(1) 第6期地域福祉活動計画の策定

○次世代福祉を見据えた構想(ホップ・ステップ・ジャンプ構想)や福祉提言の取りまとめを行い、行政や議会などに説明、理解を求めた。

○身寄りのない高齢者への支援について、法人後見制度の活用も含め、海士町役場との具体的な検討に取り組み始めた。

【課題・今後の取り組み】

○「海士町住みよい町づくり計画」と連携して策定する予定であった「第6期地域福祉活動計画」が今年度中に策定できなかったため、次年度の優先事項として行政・関係機関と連携し策定を急ぐ。

1. 理事会・評議員会・監査会・会議等

(1) 理事会

第2回理事会は予定していた定時評議員会が理事会と2週間空いておらず、再度定時評議員会を招集し、第4回理事会で役員の変更を行った。

第1回	令和7年6月9日(月)	趣味の部屋	出席8人
議題	(1)決議事項 第1号議案 令和6年度事業報告及び計算書類及び財産目録の承認について 第2号議案 監査報告について 第3号議案 令和7年度第1回補正予算について 第4号議案 規程の改正について 第5号議案 評議員の候補者の選定について 第6号議案 評議員選任・解任委員会の招集について 第7号議案 理事及び監事の候補者の選定について		

第2回	令和7年6月24日(火)	趣味の部屋	出席6人
議題	(1)決議事項 第1号議案 会長の選定について(定款第19条2) 第2号議案 副会長の選定について(定款第19条2)		

第3回	令和7年7月1日(水)	趣味の部屋	出席6人
議題	(1)決議事項 第1号議案 定時評議員会の招集について		

第4回	令和7年7月9日(水)	趣味の部屋	出席5人
議題	(1)決議事項 第1号議案 会長の選定について(定款第19条2) 第2号議案 副会長の選定について(定款第19条2)		

第5回	令和7年10月14日(月)	趣味の部屋	出席7人
議題	(1)決議事項 第1号議案 就業規程及び嘱託職員就業規程の一部改正について(養育両立支援休暇)		

第6回	令和7年12月16日(火)	趣味の部屋	出席7人
議題	(1)決議事項 第1号議案 令和7年度第2回資金収支補正予算(案)について 第2号議案 令和7年度第1回臨時評議員会の招集について		

第7回	令和8年3月24日(火)	趣味の部屋	出席7人
議題	(1)決議事項 第1号議案 令和7年度第3回資金収支補正予算(案)について 第2号議案 令和8年度事業計画及び資金収支予算(案)について 第3号議案 本部長、事務局長、事務局次長、施設長の任免について 第4号議案 規程の改正について 第5号議案 令和7年度第2回臨時評議員会の招集について		

(2) 監査等

○海士町社会福祉協議会監査会

令和7年6月3日(火)13時15分から16時5分まで 会場:保健福祉センター趣味の部屋
(監事永海尚二 監事上田賢二 監事竹中正次)

○財政援助団体監査

令和7年11月19日(水)9時30分から11時まで 会場:保健福祉センター趣味の部屋

○グループホーム諏訪苑・居宅介護支援事業実地指導

令和8年1月30日(金) on-line 隠岐広域連合

(3) 評議員会

定時	令和7年7月9日(水)	趣味の部屋	出席9人
議題	(1)決議事項 第1号議案 令和6年度事業報告及び計算書類及び財産目録の承認について 第2号議案 監査報告について 第3号議案 令和7年度第1回補正予算の承認について 第4号議案 理事・監事の選任について		

臨時評議員会

第1回	令和7年12月16日(月)	書面	書面決議18名
議題	(1)決議事項 第1号議案 令和7年度第2回補正予算(案)の承認について		

第2回	令和7年3月25日(水)	趣味の部屋	出席16人
議題	(1)決議事項 第1号議案 令和7年度第3回資金収支補正予算の承認について 第2号議案 令和8年度事業計画及び予算案について		

(4) 評議員選任委員会 6月11日(水) 任期満了による改選 18名

(5) 経営企画会議 (会長、事務局長、法人運営部長)

法人運営や施設の状況、施設長会議案や報告など毎週火曜日と金曜日に開催した

(6) 施設長会議

経営企画会議報告、各施設の状況共有、経営状況の確認等毎月第2木曜日を定例に、必要に応じて随時開催した。

2. プロジェクト・横断委員会等

(1) ビジョンマップ作成プロジェクト

令和6年度から継続して海士町社会福祉協議会のビジョンマップを作成し、5月29日に職員全体へプロジェクトの進捗を報告。エイデル研究所、ミナミデザインによりマップ原案を作成し10月の理事会を経て完成。合併後のビジョンを共有することができた。

(2) 虐待防止プロジェクト

虐待への意識を高め、社協として『虐待0(ゼロ)』を目指すことを目標に、各施設の虐待防止委員会を統括する形でプロジェクトを発足。エイデル研究所コンサルの元、職員セルフチェックリストを作成し、全職員が定期的に行う仕組みを作った。また虐待防止月間では啓発ポスターの掲示や啓発ワードの唱和を行った。

(3) 研修体系整備プロジェクト

エイデル研究所コンサルの元、法人全体の研修体系整備を行った。法定研修のスケジュール化や各施設合同で行う体系の計画を作成した。

(4) 広報委員会

ミナミデザインの南氏をコンサルに月に1回開催。ホームページの管理やSNSの発信管理、広報紙あま社協ニュースを発行した。

3. コンサルティング（エイデル研究所 熊谷耕氏 金子愛美氏）

(1) 組織改革コンサル（オンライン含む）21回

組織改編総合相談、労務管理、規程作成支援、人材育成・研修、広報相談など

○給与コンサル(オンライン)11回

・給与制度とキャリアパス設計、現状分析、E式の導入支援、規程の改正、職員研修など
給与改定職員説明会 6月11日 21日
人事考課研修会 12月17日(1次考課者・2次考課者)

○プロジェクト支援

・ビジョンマップ作成プロジェクト
・虐待防止プロジェクト
・研修体系整備プロジェクト

○来島コンサルティング

・組織改編コンサル、職員個人相談対応、職員研修会、プロジェクトの進捗確認
5月26日～30日 10月27日～31日 1月13日～14日(松江)

○視察等計画実施

・先進地視察(情報交換)聖風会 新生苑 9月3日～4日(施設長・マネージャー・相談員)

○その他

・電話 LINE などの相談随時(個別面談)

4. 会員会費及び篤志寄付等 ※順不同・敬称略で掲載しています

(1) 会員会費 合計 1,896,600円 (R6 1,895,100円)

○一般会員(年額1,900円) 1,546,600円 (R6 1,575,100円) (納入率 77%)

地区	納入世帯	納入会費額
菱浦	156	296,400
福井	29	55,100
西	32	60,800
中里	110	209,000
東	112	212,800
北分	58	110,200
宇受賀	71	134,900
豊田	52	98,800
保々見	25	47,500
知々井	22	41,800
御波	73	138,700
多井	12	22,800
崎	56	106,400
日須賀	6	11,400
合計	814	1,546,600

○特別会員(1口 10,000円) 300,000円 (R6 260,000円)

会員名	会員名
飯古建設	北峯工務店
島根農協海士支店	中ノ島クリーンセンター
元吉燃料(有)	(株)宇野
山陰合同銀行海士支店	亀田商店
奈伎良海運	ゆうでん海士支店
三好石油店	ファミリーショップくわもと
わきたに商店	(株)向山電気
隠岐國商工会	桑本石油
あざみ荘	割烹いけだ

○賛助会員(年額3,000円以上)50,000円 (R6 60,000円)

会員名	会員名
大江 和彦	田中 久夫
中川 覚敬	片桐 憲一
町議会一同	

(2) 篤志寄付金等 合計 1,744,625円 ※順不同・敬称略で掲載しています

○香典返しとして 28件 1,020,000円 (R6 1,300,000円)

○見舞い返しとして 1件 50,000円 (R6 0円)

○篤志寄付金として 10件 674,625円 (R6 721,000円)

地域福祉部門

<令和7年度重点目標と評価>

○地域調査や訪問を通して潜在する福祉課題を抱えた住民の相談を受け止め、関係機関と連携しながら地域生活が維持できるよう支援する

【実施評価】

地域調査や個別訪問を通して、実態把握に努め必要な機関に繋ぎ、必要に応じて物資の提供など行った。また、課題を抱えた住民に寄り添い継続的に支援した。今年度は、調査結果が一目で分かるよう、調査票の更新も行った。地域調査については、必要に応じて頻度や内容を変更していく必要がある。

○第4期地域福祉活動計画を住民及び関係機関等と評価し、第5期地域福祉活動計画を策定する

【実施評価】実施できず、来年度に持ち越しとなった

○持続可能な地域づくりを住民と共に考え実践する

【実施評価】

今年度、地域づくり活動として特に力を入れた地域食堂は宇受賀地区および御波地区において、年間を通して地域食堂を継続実施することができ、各地区の実情に応じた形で運営を進めることができた。継続実施したことが功を奏し、社協が離れる次年度以降も、継続して実施する方向で調整が進んでいる。地域住民が集い、交流するきっかけづくりや、地域食堂開始に向けた支援を行うことができた点は、大きな成果であったと考える。今後は、活動の定着と継続につながるよう、フォローアップ支援にも力を入れていきたい。



(各地区の地域食堂の様子)

1. 地域住民の多様な生活・福祉課題に向けた総合相談・セーフティネット機能

○日常生活自立支援事業

- ・利用者 1名 生活支援員等援助 3回 専門員相談対応 24回
- ・支援員研修・連絡会 0回 専門員連絡会 3回 専門員研修会1回
- ・その他の相談件数(金銭的な相談等) 延べ 64件(前年度 82件)

○生活福祉資金貸付制度 利用者なし 相談2件

○生活福祉資金緊急小口資金特例貸付 相談 0件

○民生融金貸付 利用者 1名(償還 0名)

○おき後見ネットワーク会議 3回

○障がい者就労支援連絡会議 1回

○緊急支援物資(県共募財源) 延べ 10件 実人数 4名

2. 地域における子育て支援体制の充実・強化

○フリースペース型サロン「温たまたまクラブ」

利用時間 毎日 9:00~17:00

利用人数(延べ) 663名(R6 557名)

○子育てサロン環境整備

3. 福祉団体の主体的参加による地域福祉活動の支援

(1)団体活動支援

○民生児童委員協議会事務局運営

- ・定例研修会 訪問調査 専門部会活動

○老人クラブ連合会活動支援

- ・運営支援

○手をつなぐ育成会事務局運営

- ・総会 交流事業

○みどり会事務局運営

- ・総会(都合により中止)

○海士町共同募金委員会運営

- ・募金活動、審査会、助成団体支援 令和7年度募金総額 1,385,821円
- ・災害義援金 15,000円(大雨、火災)

4. 成長段階に応じた福祉学習の推進

○福祉学習の実践

- ・保育園児とひまわりデイサービス利用者、居住者が交流
- ・子ども DSにて、放課後児童クラブ「あまっ子」とデイサービス利用者、居住者が交流
- ・中学3年生対象のサマーボランティアキャンプを1泊2日で実施
- ・中高校生等ボランティアを随時受け入れた
- ・「こどもワールド」12月3、4日(共同募金事業)

○地域住民向けの福祉プログラム

学校等	実施日	内 容	連携	学年	人数
けいしょう 保育園	6月9日	高齢者交流(歌、踊り)	けいしょう 保育園	うめ さくら組	22
	12月10日	高齢者交流(島前神楽、踊り)		さくら組	11
	6月10日	高齢者交流(歌、踊り:福来の里)		うめ さくら組	22
町内学校	5月	海士町内の小学校2校、中学校、高校に 訪問 福祉学習のお願いなど	学校長 担当教員	—	—
海士中学校	8月2日 ~3日	サマーボランティアキャンプ	海士中学校	3年	7
放課後児童 クラブ 「あまっ子」	7月23日	子どもDS(作品作り)	けいしょう 保育園	1~6 年生	19

5. 地域住民の主体的な参加による生涯現役のまちづくり (ボランティアセンター

(1) ボランティア運営委員会の開催 年4回

(2) 情報発信

○あまチャンネル等

あまチャンネル、社協広報誌、社協ホームページ、SNS(Instagram、Facebook、note)にて情報を発信した

○ボランティアブース

ボランティア募集情報とイベント情報を掲載、ウエス募集と使用済み切手回収ボックスを常設した

(3) 住民同士が支え合える仕組みづくり

○ボランティア祭り 11月3日実施 実行委員会3回

ボランティア 108名 参加者約100名 寄付金58,020円

○「出来る事」「困っていること」の情報収集

○プチボランティアの推進

海士町中央図書館、飯古建設、海士町役場、社協常設ボックスで使用済み切手を随時募集

○おはぎづくり、配り活動

2回実施 ボランティア43名

○配食ボランティア活動

配食ボランティア26名(配食数のべ8,432食) 配食VOの集い6月2日6名参加

○学生ボランティア活動

○ハーブボランティア活動

第2火曜はひまわり、第4火曜は福来の里で実施した

○SDGs ウェス・使用済み切手・ペットボトルの募集を随時行う

(4) 福祉学習の推進

※4. 成長段階に応じた福祉学習の推進に掲載

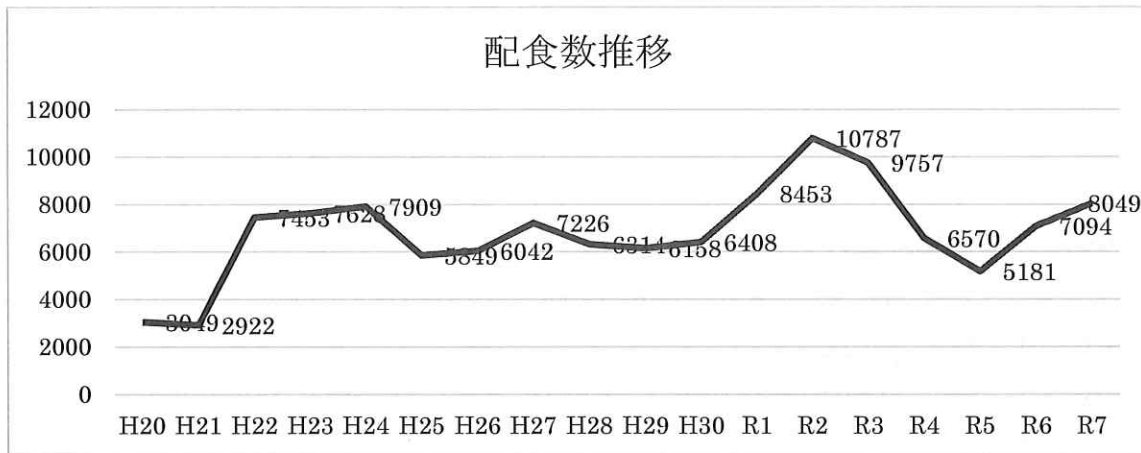
(5) 災害ボランティア

○「災害ボランティアセンター運営基盤強化研修」への参加

6. 認知症高齢者等をかかえる家族に対する支援事業（介護者の集い）

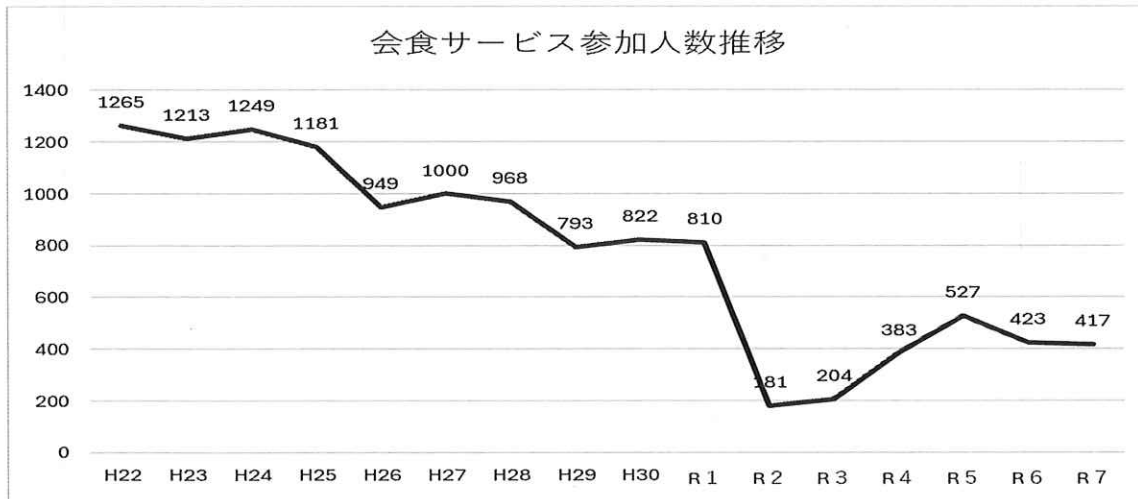
日時	参加人数	実施内容
7月1日	9	料理教室(嚥下・介護食の試食)
12月19日	14	諏訪苑見学/クリスマス会
1月20日	4	ピラティス
2月25日	6	島のほけんしつ「蔵」/セントラル亭
3月18日	7	西ノ島(みゆき荘/和光苑/本郷)

7. 食の自立支援事業（月～日曜日）8,409食 うち障がい58食（R7 7,094食）



8. 会食サービス 参加人数(延べ)計 417名(R6 423名)

5地区で実施(福井・西・中里・東・北分)

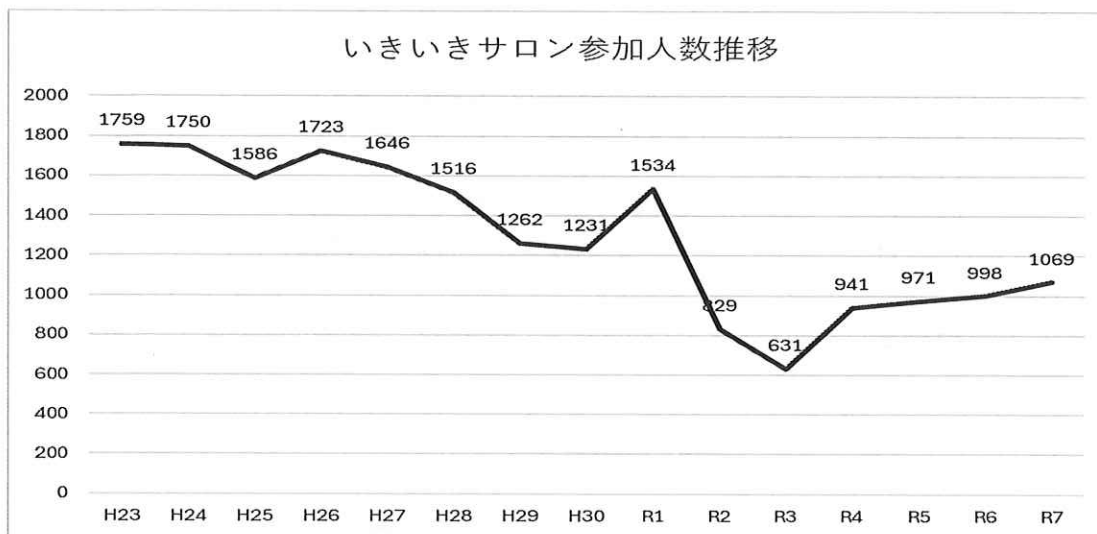


9. ふれあい・いきいきサロン 参加人数 1069名(R6 998名)

○実施地区（9地区）

- ・菱浦にこにこ会
- ・いきいきサロンふくい
- ・中里なかよし会
- ・東てつなぎ会
- ・北分いきいき友の会
- ・いきいきサロン宇受賀
- ・多井よら～や会
- ・豊田いきいきサロン
- ・知々井いきいきサロン

○ふれあい・いきいきサロン代表者会 2月26日(木)



10. みかんカフェ（認知症カフェ）

崎地区にて実施 12回 延べ 91名参加（R6 12回 延べ 74名）

日時	参加人数	内容
4月22日	4	①棒体操、歌②レクリエーション(ラダーゲッター)③花見
5月20日	7	①棒体操、歌②レクリエーション(モルック)③脳トレ
6月25日	5	①棒体操、歌②レクリエーション(大谷翔平ゲーム)③脳トレ
7月16日	6	①棒体操、歌②レクリエーション(輪投げ)③脳トレ
8月27日	5	①棒体操、歌②レクリエーション(モルック)③脳トレ
9月24日	5	①棒体操、歌②レクリエーション(大谷翔平ゲーム・競馬)③脳トレ
10月29日	7	ひまわりDS体験
11月18日	5	①棒体操、歌②レクリエーション(輪投げボール取り)③脳トレ
12月7日	7	①棒体操、歌②お菓子づくり(クリスマスケーキデコレーション)③脳トレ
1月27日	7	①棒体操、歌②レクリエーション(モルック)③脳トレ
2月17日	9	①棒体操、歌②レクリエーション(じゃんけん棒渡し・ポーリング) ②工作③脳トレ
3月10日	7	①棒体操、歌②レクリエーション(ポッチャ)③脳トレ

11. 地域食堂

宇受賀地区 実施5回延べ175名

日程	参加人数	内容
4月19日	20	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：豚汁、おにぎり
6月21日	40	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：カレー
10月18日	36	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：豚丼
12月7日	41	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：豚汁、おにぎり
2月15日	38	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：カレー

御波地区 実施6回 延べ118人

日程	参加人数	内容
5月24日	21	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：豚汁、おにぎり
7月26日	16	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：こしょみそ、キュウリの酢の物、おにぎり
9月6日	16	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：かぼちゃの冷製スープ、おはぎ
11月23日	28	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：バラ寿司、卵サラダ、ホットケーキ、味噌汁
1月25日	21	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：煮込みラーメン、餃子
3月8日	16	①体操②ゲーム/調理③昼食 メニュー：お好み焼き

12. その他

○男性の居場所づくり実践活動

麻雀サロン(ひまわり)毎週木曜日 14時～開催した

在宅福祉部（ヘルパー・デイサービス・生活支援ハウス）

1. 介護技術向上のための研修実施(法定研修および個別ニーズへの対応)

ご利用者の状況や状態に合わせた研修を計画的に実施できた。また、職員間で統一したサービスを提供するための知識共有研修も行うことができた。

【実施評価】

今後も職員が現状で不安に感じていることなどを吸い上げ、その内容に即した研修を開催し、職員の知識・意識・技術のさらなる向上を図る。

2. 計画的なイベント開催による ADL・QOL の維持向上

四季折々の行事や海士町の伝統行事を肌で感じられるイベントを計画的に開催した。季節に応じた行事を通じて、地域住民の皆様や他事業所のご利用者との有意義な交流が図れた。

【実施評価】

令和 8 年度からは「地域密着型」へ移行するため、これまで以上に地域の方々とのつながりや交流を大切にイベントを企画・継続していく。

3. 活動の多様化による個別支援の充実

ご利用者個人の趣味や好みに合わせた活動の展開に注力してきた。

【実施評価】

個別活動へのアプローチが十分でない利用者が存在する。今後はそれぞれの目的に合わせ、より個別支援の種類を増やし、一人ひとりに寄り添ったケアを強化していく。

令和 7 年度在宅福祉部 各種研修参加リスト

法令遵守(倫理要及び法令遵守)	海士	4/18	全職員
生活相談員研修会	海士	4/24	岡本、亀原、米村、福島
法令遵守(身体拘束及び虐待防止、ハラスメント防止)	海士	4/25	全職員
管理者のためのマネジメント研修	オンライン	5/9	福島
身だしなみ研修会	海士	5/14	在宅福祉部職員
排泄ケア研修会①	海士	5/29	在宅福祉部職員
ビジョンマップ説明会	海士	5/29	全職員
入浴介助研修会	海士	6/10	在宅福祉部職員
食中毒予防研修会	海士	6/19	厨房・介護職員
ホームヘルパーの質を高めるオンラインサロン	オンライン	8/19	福島
ユニ・チャーム排泄ケア web セミナー	オンライン	8/22	福島
心肺蘇生研修会	海士	9/9	在宅福祉部
排泄ケア研修会②	海士	9/25	在宅福祉部
気道異物除去研修会	海士	10/22	在宅福祉部
BCP 研修会	海士	10/26	在宅福祉部
課長・主任研修会(エイデル)	海士	10/29	課長・主任
感染予防研修会(BCP 訓練)	海士	11/19	在宅福祉部
問題解決力強化研修	松江	11/26	岡本
苦情解決研修会	オンライン	12/2	福島
リスクマネジメント研修(一般職コース)	オンライン	12/8.9	米村
リスクマネジメント研修(管理者コース)	オンライン	12/10	岡本
ギャンブル関連問題関係者セミナー	海士	1/29	全職員(復命)
障がい者虐待防止・権利擁護研修	オンライン	2/9	村尾
罪を犯した人の支援に携わる福祉関係者のための研修会	オンライン	1月	全職員(復命)

○その他

在宅福祉部会、入浴介助検討会、ヘルパー会等定期的に開催

○実習生受け入れ等

大阪福祉短期大学夏合宿受け入れ	海士町	8月5日
-----------------	-----	------

○令和7年度 訪問介護 利用実績

介護保険	稼働時間(介護)	利用人数(介護)	稼働時間(総合)	利用人数(総合)
令和7年度	1788.6時間	1720人	649時間	649人
令和6年度	1392時間	1446人	510時間	510人

○令和7年度 障がい訪問介護 利用実績

精神障害	稼働時間	利用人数
令和7年度	47時間	57人
令和6年度	44時間	44人

○令和7年度 通所介護 利用者実人数

実人数	介護(実人数)	総合(実人数)	介護(延人数)	総合(延人数)
令和7年度	267人	155人	3218人	770人
令和6年度	344人	142人	4161人	724人

○令和7年度 通所介護事業 イベント・行事計画 実施内容

花見	4/9	運動会	9/16
出雲光一さんコンサート	5/2	かんこ船競争見学会	9/23
ツツジの花見	5/8	お芋クッキング	10/30
法人内利用者交流会	6/26	あったか感謝祭	11/27
七夕	7/7	クリスマス会	12/24
買い物ツアー	7/17	餅つき	1/19
子どもDS	7/23	節分	2/3
納涼祭	8/6	雛祭り	3/17
三味線演奏会	8/11		
丹後さん手品ショー	8/13		

○令和7年度 生活支援ハウス 利用状況(3月1日現在)

	入居者	入所者	退所者	平均年齢	ショート
令和7年度	6名	3名	8名	86.5歳	3名
令和6年度	11名	8名	9名	85.6歳	2名

利用者介護度

	認定外	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3
令和7年度	1名	1名	1名	2名	1名	0名
令和6年度	3名	2名	2名	3名	1名	0名

○令和7年度 生活支援ハウス行事・活動

書道を定期的に行い、買い物ツアーや新年会を実施した。その他、DSと一緒に活動を行い、活動の幅を広げることができた。

福来の里デイサービスセンター

今年度は施設長の交代と、当初から介護職員不足の状態ですスタートした。職員不足の中でも、12月までの稼働率平均は昨年度をやや上回る事ができ、ご利用者の皆様の安心につなげることが出来た。入浴などの業務改善を図る中で職員間の協力体制(お互いさま)が出来たこと、職員が自分で考え、状況に合わせて動くことに努めてくれたことが要因と考える。1月からは看護師を配置できないことで、定員を10名に減らさないと運営が出来ない状況となり、ご利用者の皆様にはご迷惑と不安をあたえてしまった。行事などのイベントも職員不足の中、島留学生や島体験、複業組合と協働することで規模は小さいながらも、例年どおり開催することができ、皆様の元氣と笑顔につながることが出来た。

○令和7年4月～令和8年3月 行事

4月	7日	お花見ドライブ
	8日	お花見ドライブ
5月	2日	出雲光一合同コンサート(ひまわり)
	29日	4・5・6月誕生日会
6月	10日	保育園交流
	26日	3施設合同企画
7月	7日	七夕会
8月	13日	臨時営業
	22日	納涼祭
	29日	7・8・9月誕生日会
9月	16日	敬老会
10月	2日	外食ドライブ(セントラル亭)
11月	5日	紅葉ドライブ
	17日	10・11・12月誕生日会
12月	8日	保育園交流
	25日	クリスマス会
1月		デイサービス定員を15名から10名に変更
	5日	隠岐神社初詣
	6日	隠岐神社初詣
	29日	餅つき
2月	3日	節分会
	12日	1・2・3月誕生日会
3月	3日	ひな祭り会

○利用者の登録状況 令和8年3月31日現在

	事業	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
	0	4	2	6	7	3	1	0	23名

○職員研修

10月29日	認知症及び認知症ケアについて(隠岐老研)
	プライバシー保護について
	倫理、法令遵守について
2月26日	事故対応、リスク管理について(隠岐老研)
	緊急時対応について
2月26日	感染症、食中毒の予防と蔓延防止対策について(隠岐老研)
2月6日	身体拘束の排除の取り組みに関する研修(内部研修)

11月10日	非常災害時の対応について(隠岐老研)
2月6日	高齢者虐待防止に関する研修(内部研修)
3月12日	大人の発達障害について(海士町役場)
3月17日	BCP研修、避難訓練(事業所内研修)
3月18日	入浴研修(事業所内研修)

○その他研修、受入れ等

4月	15日	Fine-link Plus 導入説明会
5月	22日	高校生交流(1名)
6月	17日	食中毒予防研修
	8日	風と土と主催 施設見学
7月	5日	大阪福祉短期大学(2名)
8月		夏休み中高校生バイト受入れ
	4日	自治医科大学 看護学科(2名)
9月	12日	中学生職場体験3日間
11月	12日	大人の島留学最終報告会(涌井)

居宅介護支援部門

1. 重点目標の達成状況

重点目標①:有資格者との情報交流による資質向上

○専門職同士の事例検討(施設×居宅)

諏訪苑の施設ケアマネジャーと居宅ケアマネジャーによる共同事例検討を実施。

【実績評価】

利用者・家族の意向把握や課題分析において、専門的な視点から新たな気づきや学びを獲得。地域資源の活用や創出を見据えた情報発信、ケアプラン立案が可能となった。

○介護支援ソフトの利用と活用

【実績評価】

業務効率化を推進。アセスメントの情報収集、ケアの統一化、および多職種・事業所間のスムーズな連携体制を構築できた。

重点目標②:ケアマネジャーの人材育成支援とチームワークの向上

○資格取得の支援(受験啓発と気風作り)

介護支援専門員を目指す職員を対象に、本試験直前まで月2回程度の勉強会や模擬テストを企画・実施(計8回)。

【実績評価】

有資格者からのアドバイスや悩み相談の場を設けることで、受験者のモチベーションを維持・向上させて試験へ送り出し、結果3名の合格者を出した。

○資質向上とスキルアップ(研修の共有)

【実績評価】

外部研修等を通じて専門知識の習得と視野の拡大を図った。さらに、研修での学びを事業所内のチームへ伝達する「新たな研修の場」を設け、組織全体で知識を共有した。

○自己点検の実施

事業所独自の「専門業務等に関する自己点検シート」を用いた振り返りを実施(年2回)。

【実績評価】

職員一人ひとりが自身の業務役割や取り組みについて、客観的な振り返りを行うことができた。

2. ケアプラン作成実績

今年度の予防および介護計画の利用者実績は以下の通り。

- ・予防計画利用者実績:延べ件数 26 件(新規 2 件)
- ・介護計画利用者実績:延べ件数 692 件(新規 25 件)

3. 研修報告実績

研修内容	場所等	日程	実施者
法令遵守・ハラスメント防止・身体拘束虐待防止	海士町	R7.4.18	全員
食中毒予防研修会	海士町	R7.6.17・19	野田・花岡
高次脳機能障がい 隠岐圏域地域支援ネットワーク(復命)	海士町	R7.7.1	全員
在宅・施設事例検討会			
軽度要介護者の在宅支援へ向けて			
抱撲「ひとりにしない」と言う支援 社会問題への対応とケアマネジメント	on-line	R7.8.6	野田
「伴走型支援」(復命) 社会問題への対応とケアマネジメント	海士町	R7.9.2	全員
感染症等の発生時における持病継続計画 BCP	海士町	R7.11.17・19	全員
虐待防止・身体呼応側適正化 虐待防止・権利擁護の取り組み	on-line	R8.1.29	野田・佐々木
居宅介護支援事業所での 虐待防止の取り組み(復命)	海士町	R8.2.5	全員
ギャンブル関連問題関係者セミナー(復命)	海士町	R8.2.13	全員
R7 年度 ケアプラン点検研修会	on-line	R8.2.25	野田
自然災害時等における事業継続計 BCP・シミュレーション訓練実践	海士町	R8.2.25・26	全員

障害福祉部門

1. 共同生活援助（グループホーム）等・あまの里入所状況

（1）重点目標と実績

- 家庭的な雰囲気の中かで過ごせるやさしい居場所を目指す
 - ご利用者の人権を守り、個性を尊重しながら、安心・安全で快適な生活を送っていただく支援する
 - ご利用者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、心のケアを念頭においた支援を行う
- 【実績評価】あたたかい雰囲気の中、一人ひとりの細かなニーズに応えながら支援を行うことができた。

（2）業務報告

- ご利用者支援
 - ・個別支援計画を元に、個々に応じた生活支援を実施。
 - ・家族・親戚へ情報提供を行い、現在の状況を共有。
 - ・ハラスメント・虐待防止の徹底、利用者の意思決定支援。

【実績評価】

支援計画のもと、ヘルパーやデイサービスなど他機関と連携し、必要に応じてサービスを増やすなど、安定した生活に繋げることができた。

- 地域連携推進会議（令和7年度より義務化／5名構成）

【実績評価】10月16日に実施（参加者3名）。施設見学を併せて行う。

- 施設管理

【実績評価】

居住空間の環境整備として、キッチンエアコン（業務用）および居室1室のエアコンが故障したため購入。居室出入口の扉（3部屋分）を修理。

- 消防避難訓練

【実績評価】

「福来の里」と合同で計2回実施（10月17日、3月25日）。夜間を想定し、宿直者も訓練に参加。

（3）職員研修・会議実績（令和7年度）

- 毎月（第4金曜日）：定例会議（全体での情報共有、必要に応じて個別支援会議）
- 12月：高齢者虐待防止研修（Zoom研修）に参加
- 3月：虐待防止・身体拘束委員会を実施

あまの里入所状況（令和8年3月31日現在）

障害支援区分	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	合計
男性	3名	1名	1名	0名	0名	5名
女性	1名	0名	1名	0名	1名	2名
合計	4名	0名	0名	0名	1名	7名

2. 就労継続支援B型事業所 さくらの家

（1）重点目標と実績

- 互いの個性を尊重し合い、その人の持っている自らの能力を最大限に発揮できるよう支援する
- 【実績評価】個人の得意分野に視点を置き、日々の活動を行うことができた。

○一般就労を希望する人が、就労に必要な生活面や社会的にステップアップする支援を行う。
【実績評価】関係機関(就労・生活支援センター太陽)と連携を図り、実習の計画を立てることができた。

(2) 作業・生活支援および地域交流

○作業内容：ふくぎ茶の製造販売、清掃業務、惣菜加工販売、リネン工場等作業。
 ○笑庵運営部門：知夫村「笑庵」の活動を支援。

【実績評価】月に1回訪問し、ご利用者との面談および職員との情報共有を実施。

○地域交流・啓発活動：さくら祭り等の交流を通して障がい福祉の理解を促進。

【実績評価】

「大人の島留学生」の受け入れにより生産活動の協力を得た。また、地域の方を招いた交流会を開催し、体験生が企画を担当することもあった。12月に「さくらまつり」を開催した。

(3) 日中一時支援事業

○日常的に介護を行っている家族の負担軽減、及び障がい児の放課後預かり支援。

【実績評価】毎月金曜日に実施。

(4) 虐待防止等の措置・研修実績

○毎月(第3水曜日)：定例会(ご利用者状況の共有、必要に応じて個別支援会議)

○6月：虐待防止・身体拘束委員会

○12月：不審者対応訓練研修、高齢者虐待防止研修(Zoom)への参加

利用者数

	R3	R4	R5	R6	R7
延べ人数	3,240	2,807	2,274	2,483	2,537

収入状況

	R3	R4	R5	R6	R7
ふくぎ茶	2,886	2,227	2,308	2,548	2,314
惣菜	1,307	1,235	1,267	1,233	948
その他	2,150	2,162	1,656	2,002	2,132
合計	6,343	5,624	5,213	5,783	5,394

3. 障害者相談支援センター ウェーブ

(1) 重点目標と実績

○障がいのある人たちが、海士町で自分らしく生活していけることを目指し、安心して暮らしていくことを目標とする

○計画的な支援を必要とする方を対象として、サービス利用の斡旋・調整などの支援事業を行う

○関係機関との連携、ネットワークを構築し、必要な専門機関の紹介を行う。また、当事者の地域生活を支えるシステム作りに協力・貢献する

【実績評価】

居宅介護ケアマネジャーと連携するケースがあり、サービスを増やすことで生活の安心・安定につながる事例があった。

(2) 利用実績 ○利用者数：10名

特別養護老人ホーム 諏訪苑

1. 入所者状況

目標設定数値(26名/ショートステイ2枠含む)に対し、年間平均ご利用者数は25.1名だった。
○入退所内訳 入所 7名 退所 8名

2. 会議・委員会活動

(1) 運営・合同会議(グループホーム合同)

○運営およびリスクマネジメントに関わる重要な会議・委員会を定期開催(一部臨時開催)
職員全体会議/入所判定会議/身体拘束適正化・虐待防止委員会
感染症対策委員会(※コロナ感染発生時に伴う臨時会議も実施)
苦情解決委員会

(2) 現場主体会議・委員会活動

○現場職員が主体となり、ケアの質向上や職場・環境改善に取り組んだ。
・介護主任会議 / 検証会
・環境美化委員会(職場環境の整備、定期的な大掃除の実施)
・食楽委員会
(嗜好調査の実施、「食楽通信」の発行、手作り羊羹・チョコレート作りなどの食イベント実施)
・生活向上委員会(レクリエーションに関するアンケート調査の実施など)
・モラル向上委員会(挨拶運動のポスター掲示、アンケートの実施など)
・諏訪苑広報委員会
(広報誌「新しい風」の発行、ご家族への送付、苑内掲示、InstagramによるSNS活動発信)

3. 研修会(人財育成)

○職員の専門性向上および安全管理のため、外部研修の復命を含む各種研修を実施した。
・排泄ケア:ユニ・チャームおむつ研修
・安全・防災:BCP(事業継続計画)研修
・感染症対策:保健所連携研修、ガウンテクニック、吐物処理
・救命救急:救命研修(AED使用方法)
・食事・口腔ケア:フードケア研修(とろみ・嚥下(えんげ)について)
・権利擁護:復命研修(虐待防止・身体拘束廃止)

4. 年間イベント・地域交流

○季節感の向上や地域・世代間交流を目的に、以下の行事を実施(※GH:グループホーム)
・春:お花見、さくらまつり参加、ひな祭り
・夏:納涼祭、鑑賞花火、キンチャモニャ祭り参加
・秋:運動会、長寿を祝う会(GH合同)、産業文化祭(出展・出店)、ボラ祭り、勤労感謝の日(プッチンプリンもてなし)
・冬:クリスマス会、おみくじレク、とんど焼き、餅つき大会(GH合同)、祈願祭(GH合同)、節分、牡丹餅づくり参加
・通年:保育園交流(年2回実施)

5. 組織活性化・業務改善(その他)

(1) 人事・マネジメント

○職員個人面談の実施

- ・4月～6月:マネージャーによる個別面談(介護・看護・厨房・相談員)
- ・年末:介護職員を3グループに分割し、介護長および両主任が分担して個別面談を実施
- ・職員交流会の実施(年3回実施、職員間のエンゲージメント向上)

(2) 職場環境・業務効率化

- 諏訪苑魅力化プロジェクトの導入:ハピネスベンチ・看板の設置、中庭アートの作成などを実施
- 「いいネカード」の導入:職員間のポジティブなフィードバックを活性化
- 毎月1日の「補装具点検日」導入:安全な器具使用の徹底
- 作業療法士(OT)による評価の実施(月1回、専門的知見の導入)
- デジタルデトックスの推進:サーバー内共有フォルダの整理・最適化

グループホーム 諏訪苑

1. 入所状況

年間を通じて概ね満床に近い、安定した稼働を維持した。

○入所者数:目標設定9名 / 年間平均8.8名

○入退所の推移:

- ・4月:入所1名、退所1名
- ・6月:入所1名

2. 会議・委員会活動

運営の適正化、リスクマネジメント、および特別養護老人ホーム(特養)との連携強化を図るため、各種会議を定期・臨時にて開催した。

(1) 特養合同会議

職員全体会議/入所判定会議/身体拘束適正化・虐待防止委員会
感染症対策委員会(※期中コロナ感染発生に伴い、臨時会議を都度実施)
苦情解決委員会

(2) 現場主体会議・委員会活動

- 身体拘束適正化委員会:運営推進会議に合わせて実施
- 月例会:毎月開催(業務連絡・情報共有)
- 検証会:毎月開催(ケアの質向上・事例検討)
- 運営推進会議:2ヶ月に1回開催(地域連携・外部評価)
- 一期会:毎月15日開催(ご利用者との意見交換・傾聴の場)

3. 研修会実績

職員の専門性向上と安全なケアの提供を目指し、多岐にわたる研修を受講・実施しました。

○ケア技術・専門知識:

- ・ユニ・チャームおむつ研修
- ・フードケア研修(とろみ・嚥下)
- ・認知症研修

○安全・リスクマネジメント:

- ・BCP(業務継続計画)研修
- ・感染症対策研修(保健所指導、ガウンテクニック、吐物処理)

- ・救命研修(AED 使用方法)
- 人権・コンプライアンス：
 - ・権利擁護研修
 - ・身体拘束・虐待防止研修(1月、3月実施)

4. 年間イベント・地域交流

季節感の工夫や地域・次世代とのつながりを重視し、感性を刺激する多彩なアクティビティを実施した。

カテゴリ	主な実施内容
季節・伝統行事	とんど焼き、節分、お大師さん、祈願祭、お月見会、クリスマス会
生産・手作り活動	芋苗植え、まき作り、干し柿づくり、干し芋づくり、味噌づくり、餅つき
交流・外出	保育園交流、産業祭への出展・参加(外出)、ドライブ
苑内レク・日常の楽しみ	夕涼み会、盆踊り、運動会、誕生日会、長寿を祝う会、お茶会(東屋)、食事会(希望メニューや季節の食事を職員と同席で楽しむ会食)

5. その他の取り組み

- 特養合同職員交流会(年3回)：施設間の連携と職員のモチベーション向上を図った。
- 情報発信の強化：SNSを活用し、日々の活動や苑内の様子を積極的に発信した。
- 専門職による評価：作業療法士(OT)による評価を月1回実施し、個別の機能維持・向上に努めた。
- 業務効率化(デジタルデトックス)：サーバー内の共有フォルダの整理を行い、情報検索の効率化とデータ環境の適正化を推進した。

保健センター事業

- 日常整備及び保守点検にて年間営業日343日を確保、
今後も町民の健康維持または癒しの場所として事業継続を目指します。

(1) 各設備点検・水質検査

- ・水質検査(1回/月)・レジオネラ菌検査(2回/年)・ボイラー点検(2回/年)
- ・ろ過機点検(1回/年)・消防設備点検(2回/年)
- ・日常整備(通年)

(2) 各主団体の施設利用支援

- ・海士小学校プール事業(7月～9月)
- ・海士町教育委員会生活合宿事業(11月)
- ・不登校児童生徒居場所確保(あまふる)利用支援(毎週1回)
- ・地域交流イベント等